



地域のもつ 人のつながりと その生活資源を通じた活性化の試み

立教大学

目次

1. 目的
2. 活動内容
3. 活動を通して明らかにになった課題と成果
4. 今後の予定
5. ふるさと活性化への提案

1. 目的 活性化とは？

活気のある地域には、

「人のつながり、かかわり」が豊かに
ある

人のつながり、かかわりが生まれている場面と
は？

「会って」「話をしている」場面

「かかわり」をもち、「話を聞く」こと
により

⇒地域の活性化につなげる

1. 目的 活動のコンセプト

関わろう！

話を聞こう！

2. 活動内容

増尾地区、木呂子地区に暮らす高齢者から日常生活の工夫について伺う

1. 活動の準備

キーパーソン（佐藤太氏）の協力のもとインタビュー準備

2. インタビュー実施⇒課題発見⇒軌道修正

3. 関係づくり

4. 次年度計画の話し合い

2. 活動內容 活動地



2. なぜ、昔の暮らしなのか？

中山間地域での昔の暮らしのイメージ
自然の中で、地域の人々がつながって営まれていた暮らし

小川町で代々暮らしているお年寄りに、日常生活上の工夫
(知恵)を教えてもらう。



現代社会の抱える課題（人のつながり、人と自然のつながりの希薄化）の解決の糸口を見つけることができる
のではないか

※具体的な質問項目は・・・

2. 活動内容 質問項目

① 養生法について

腹痛や肩こりなど体の不調の調整法、健康維持法

② 食事について

食事の楽しみ方、地域で伝わってきた調理法

③ 仕事について

仕事と生活の関係 仕事の中の生活と生活の中の仕事

④ 文化について

祭りにおける人と人、人と自然の関わり

⑤ ライフスタイルについて

衣食住全般における生活上の知恵

2. 活動実績

- | | | | |
|--------|-------------|-------------|---------|
| 第1回 : | 2010年08月18日 | S.Yさん | 於増尾公会堂 |
| 第2回 : | 2010年08月26日 | S.Kさん | 於増尾公会堂 |
| 第3回 : | 2010年09月14日 | N.Fさん | 於小川図書館 |
| 第4回 : | 2010年09月25日 | ふれあいサロン | 於増尾公会堂 |
| 第5回 : | 2010年10月23日 | S.Kさん、K.Yさん | 於増尾公会堂 |
| 第6回 : | 2010年11月27日 | A.Kさん他4名 | 於木呂子公会堂 |
| 第7回 : | 2010年12月11日 | 増尾地区餅つき大会 | 於増尾公会堂 |
| 第8回 : | 2010年12月23日 | 落ち葉掻き | 於木呂子権現山 |
| 第9回 : | 2011年01月15日 | T.Yさん | 於小川図書館 |
| 第10回 : | 2011年02月10日 | 小川町商店街活性化WS | 参加 |

2. インタビュー調査 S.Y氏（8月18日）

- 88歳／元教師
- 「人は何か喜びを感じるものがないとダメ」

- 山に入って何か採ることはない
 - 増尾は街としての色が強い
- 病気や怪我の治療法
 - “富山の置き薬”を利用した
- 道普請
 - 隣組同士でもコミュニケーションが失われつつある

2. インタビュー調査 N.F氏 (9月14日)

- 50歳代
- 郷土史研究者／小川町生涯学習指導員
- 「団結力ゆえの町の閉鎖性」

- 豊かな小麦粉文化→うどん、饅頭、そうめん
- 産業とその衰退→絹織り、和紙、建具、酒造

- 竹沢村木呂子地区の紹介

2. インタビュー調査 木呂子地区 (11月27日)

- N.F氏の紹介
- “村の長老”A氏、K氏 M氏、T氏
- 炭は下痢止めにも使った
- 本当に捨てるごみはなかった
- 醤油は作る – 多摩から醤油を絞る職人を呼んだ
- 昔は山菜も少しは採ったが今はしない
⇒目の前にある課題、ニーズを知り、対応を
考えることの必要性



2. 関係づくり活動：ひとりまかない (12月11日)



- ❑ 65歳以上の独居者の昼食を通じた交流を図る
- ❑ 演奏→フラダンス→カラオケ・懇親会
- ❑ 「手料理の方が出されて嬉しいし会話も弾む」
- ❑ 「久しぶりに大学生とおしゃべりした」
- ❑ 反省会
- ❑ 女性ばかり、男性の参加がなかった
- ❑ 「団子作りで世代間の交流ができるのでは」



2. 関係づくりのための活動



ひとりまかない
2010年12月11日

二十三夜様
2010年10月23日



落ち葉掻き
2010年12月23日



3. 活動を通して明らかになった課題

- 生活の知恵や昔からの工夫をうまく聞き出せない
 - ・インタビュー対象の選定か
 - ・「わざわざ話すほどのことでもない」
 - ・“調査”の聞き取りでは相手も畏まってしまう
- 活動目的の共有が足りなかった



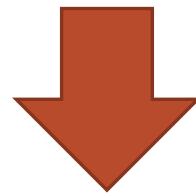
- 日常生活の「当たり前」を話し合える関係の形成
- 参加型ワークショップによるゴールの共有

3. 今年度活動の成果

1. 活動を通しての気づき（課題含む）
2. 関係づくりの土台づくり
3. 大学内での活動の展開
 - ⇒他学部学生、サークルとの共同活動
 - ⇒11年度正課授業プログラム
4. 活動目的の共有
 - ⇒ワークショップの開催
 - ⇒ファシリテーターの協力

4. ふたつの活性化

- **地域レベルの活性化** = 活動の結果もたらされる効果（産業振興、イベント企画実施）
- **個人レベルの活性化** = 活動自体そのものの効果（おしゃべり、笑顔、楽しい時間） ⇒ 物語

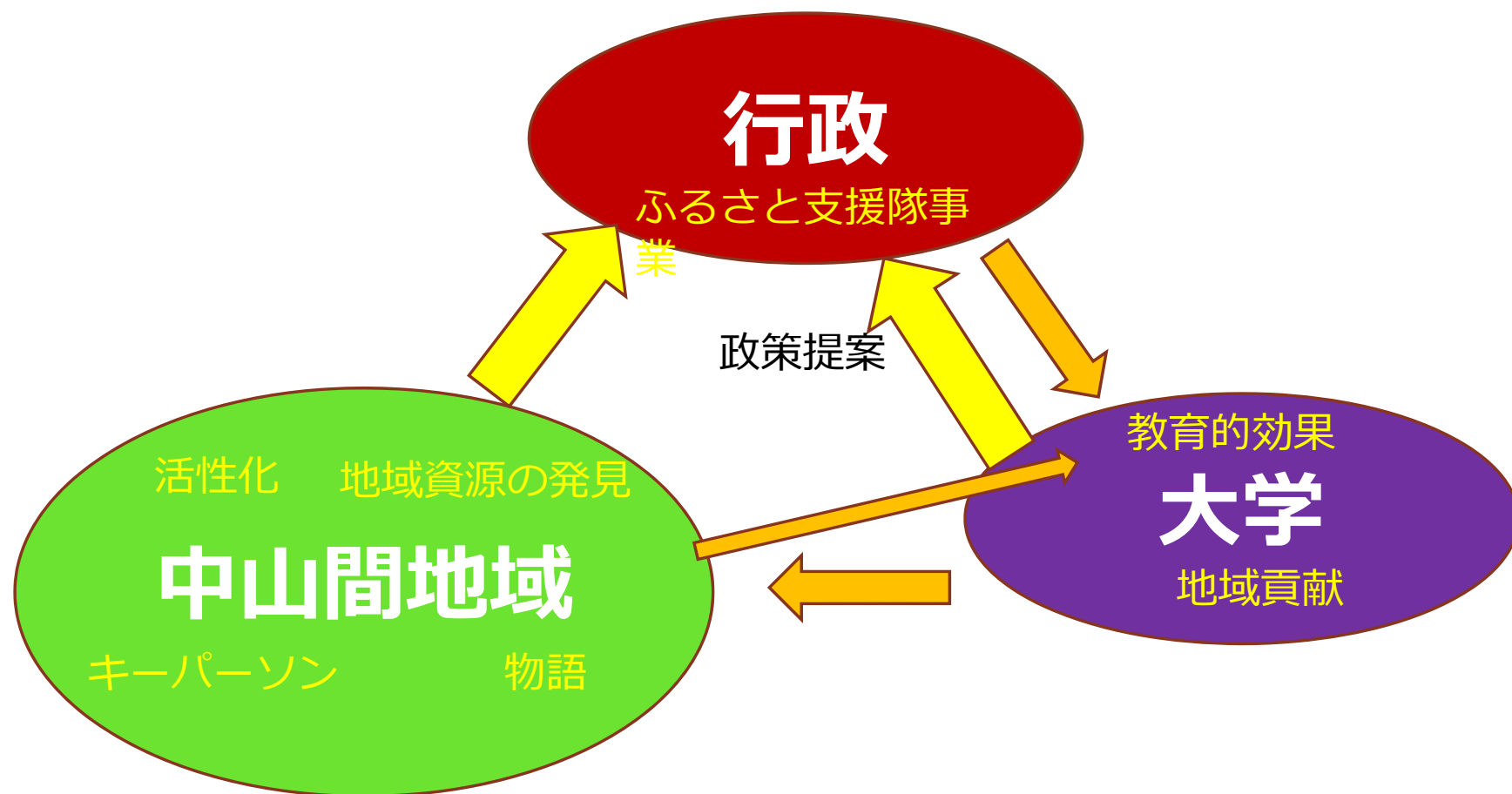


個人レベルを地域レベルへつなげる仕組みの構築

4. 今後の活動概要

- 映画会開催
 - 伝統行事参加
 - 昔話を絵本にする（美術サークルNOA協力）
 - ゆず、かんきつ類→商品化（ワークショップ）
 - 木呂子の桜
 - 炭の今風の使い方
-
- 小中高連携（総合学習）⇒継続性
 - 大学プログラムへの位置づけ⇒継続性

5. ふるさと活性化への提案





ご静聴ありがとうございました